

里山再生を目指す「甲州市・オルビスの森」プロジェクト オルビス、社員ボランティア約100名が間伐作業を体験

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:町田恒雄)は、山梨県甲州市に広がる荒廃した森林を里山として再生する「甲州市・オルビスの森」プロジェクトの一環として、11月9日(日)に従業員ボランティア及び関係者約100名が間伐作業を行いました。

間伐とは、十分な光や栄養が一本一本の木々に行き渡る様、込みすぎた立ち木を一部抜き刈りすることで、森林全体を育てていくためにはとても重要なメンテナンス作業の一つです。オルビスは2002年から継続して植林や下草刈りなどの活動を実施してきましたが、今回新たに間伐という作業を体験することで、より従業員の環境保全への理解、意識が向上したイベントとなりました。



間伐作業の様子



作業終了後、参加者全員で記念撮影

オルビスは1987年の創業以来、常に事業活動における地球環境への負荷を意識し、環境に配慮した商品開発、サービスを心がけてきました。2001年には社内に環境委員会を設置、2002年より現在まで継続して、山梨県における社員参加型の環境ボランティアイベントを年2回、開催しています。

今回は2012年に山梨県甲州市に誕生した「甲州市・オルビスの森」で、家族を含む約100名の従業員・関係者が参加し、ヒノキやスギなどおよそ20~30本を間伐しました。

「甲州市・オルビスの森」について

甲州市塩山上小田原の広さ約100ha(東京ドーム約21個分の広さ※)の市有林。公益財団法人オイスカの仲介により、オルビスと甲州市が同地の整備、保全に向けた協定を2011年1月31日に締結しました。オルビスは2012年度から10年間にわたって植林や間伐、下草刈りなどの整備を行い、人と森をつなぐ里山として再生させるプロジェクトを推進しています。

※東京ドームの敷地面積を46,755㎡として換算

オルビスの環境活動について

オルビスは1987年の創業当時より、事業活動において様々な環境負荷低減の取り組みを行っています。2002年からは公益財団法人オイスカ、行政と協働で、山梨県内における環境保全活動を開始。これまでに甲府市「武田の杜」の森林整備(2002~2013年)、鳴沢村富士山麓での「富士山の森づくり」プロジェクト(2007年~)で、毎年春と夏の年2回、多くの従業員がボランティア参加してきました。これらの継続的な取り組みに対して、2006年、2014年に山梨県知事より感謝状が授与されました。

また海外においても同じくオイスカの「子供の森」計画に賛同し2002年よりフィジー共和国への支援を開始、現在も継続しています。

オルビスでは環境への取り組みを専用サイトでご紹介しています。

是非こちらもご覧ください。

<http://corp.orbis.co.jp/csreco/>

【本件に関するお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室

Tel 03-3563-5540/Fax 03-3563-5543